

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|---|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 1 | 重度化した入居者が多かったことから、身体的に軽度な方が入居されても職員が手を出しすぎる傾向が抜けきれていなかった。転倒などの事故を懸念するあまり、過剰な介護となっていた。 | 入居者の方々ができることは自分で行いながら、個々のペースでゆっくり過ごすことができるようになる。 | 職員ミーティングにて『理念の重要性』を確認し、今回の評価結果を踏まえて、再度理念を構築する。また、常に意識付けていくために毎朝の朝礼時に唱和する。 | 6ヶ月 |
| 2 | 14 | 認知症ケアについて繰り返しミーティングの度に研修を行っているが、なかなか浸透しない。日常生活では良い関わりができていますが、BPSDの症状に対して適切ではない対応がみられることがある。 | 認知症の症状によって、本人が混乱したり困っている時こそ、気持ちに寄り添った声かけや対応ができるようになる。 | 「認知症ケアにおける接遇マナー」の研修を行う。 | 3ヶ月 |
| 3 | 10 | 介護計画作成時・変更時のサービス担当者会議により職員間で検討しているが、日々の業務に流されて詳細なサービス内容が全職員に浸透していない傾向がみられた。 | 介護計画に沿った、統一した認知症ケアが行えるようになる。 | 各介護計画のサービス内容をチェック式にし、毎日記録時にサービスを提供できたかどうかのチェックを行うようにする。 | 12ヶ月 |
| 4 | 15 | 項目番号1に添う内容であるが、重度化によるターミナルケアを行っていた入居者が多かったことから、テキパキと仕事をするのが身についてしまっていた。 | グループホームの本来の姿を再確認し、入居者の方々が自分らしく楽しく過ごせるようになる。 | 毎食時中、職員は業務をせずに一緒に座って食事をしたりお話しをしたりするようにした。また、一人ひとりのできることを取り上げないように、自立支援を理念に掲げて意識付けていくようにする。 | 6ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。